

朝倉市 松末復興かわら版

第3回復旧復興推進協議会

2018年1/27土19時

回松末地区復旧復興推進協議会が開催され、行政からは国交省 林野庁・県および市の関係機関と森田俊介市長らも列席した。松末からは区長委員24名ほか住民20名ほどが傍聴に訪れ、最後の協議会を見守った。前回の松末地区協議会は夜22時過ぎまで意見が絶えなかったが、今回も具体的な計画が示されないことと質問が続いた。

松末地区計画案について市からの説明があり続いて三谷座長からの補足説明がなされた。松末地域コミュニティから提出された「松末地域から提案・要望」について

は伊藤睦人会長より説明が行われた。これは河道・道路・住宅地について各集落会議での要望事項を松末推進協議会として取りまとめたものである。その後復興計画全体について質問を受けたが、委員から「12月で終わった査定の結果はどうだったのか」先が見えないと70歳も過ぎて営農意欲の維持が困難だ。今回の資料は12月の骨子案と同じでは」との質問が続いた。どの質問も計画に具体的な内容が盛り込まれていない事に関連していた。これに対して副市長から準備中もしくは検討中との回答が続いた。また九大支援団からも復興計画を具体的に示さないと今後の対応を縛る結果から松末の原

状が見えているのではないか。それならこれらの結果を元に具体的な提案があつてしかるべきではないかという質問で、あまりに整然としていたにマスコミ関係者が「この市議員さん？」と囁きあつていった。この質問に対して市からは残念ながら具体的な提案は示されなかった。しかし確かにアンケート結果には松末の特異性が現れている。

協議会冒頭、挨拶する伊藤睦人会長

全体で痛み分け出来る体制を今から準備してほしいと要望があつた。また⑥乙石川河道については左コブムに詳説石詰区から避難路をお願いしただけで河道まで変える必要はないのでは」と問われ「この話は避難路とは別に真竹区から出たもの」と三谷氏から回答された。瀬ノ口区から急な話なのでなんともいえない」との意見に同氏から先週の瀬ノ口集落会議でお話するつもりでしたが、明日に伸びたので順番が逆になってしまいました」との説

明があつた。行政にこういう可能性を検討してもらうことのであつて、松末の要望として決定するものではない」との捕捉があり、伊藤会長からも「むしろこの段階からこの話が頓挫しても悪も叩き進め方をすることを確認しておきたい」と念を押されて推進協議会として承された。翌1月28日の瀬ノ口集落会議では九大提案として行政に検討依頼する事が了承され、翌々日29日に九大から福岡県筑後

川工事事務所へ検討が依頼された。

三谷教授は「市民アンケートの結果を見ても松末地区だけ今だと感じていたが、サイレン山後の居住地について迷っている人が多い。これは松末の将来像が見えていないことが原因の一つだ。」加えて「今回の集落ごとの復興計画では集団移転用地が松末小学校近傍に集まる結果となっている。このことから小

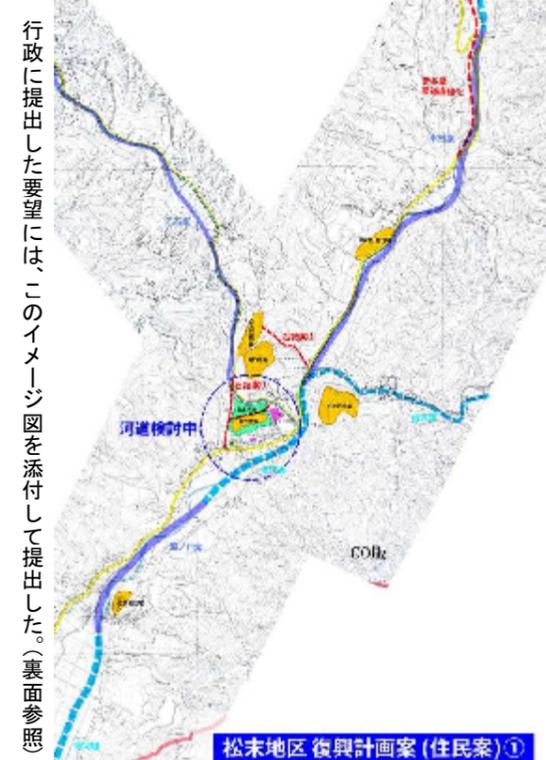
朝倉市が12月に郵送より実施したアンケート結果が今回示され、松末地区は247戸に郵送され151の返答があり、回収率60% 平均40%と他の地区より住民の関心が高かつた。また今後の住まいについては「元の場所に住みたい」が他の地区では60%70%になるのに、松末は40%と低く判断できない」が30%と高率である。

事前会議でサイレン山再開発について説明する三谷九大教授。

■朝倉市アンケート 今後のお住まいについて

元場所に住み続けたい。 44人 41%
現時点で判断できない。 36人 34%
市内の別な地区に転居予定 8人 8%

が現れていると思われる。



松末地区復興計画案(住民案)①

行政に提出した要望には、このイメージ図を添付して提出した。(裏面参照)

松末推進協議会 協議会に先立ち16時から2階研修室で区長委員による推進協議会が行われた。内容は①長期避難に対する支援②出水期に向けての安全確保③農地再生に向けて④行政への提案要望事項 河道・道路・宅地・用水の確認⑤学校跡地利用⑥乙石川河道変更などであった。

⑥については三谷教授から説明が行われた。③については伊藤会長より各集落単位で農事委員を中心し組合を作るなどの検討に入り、河道拡張による農地減少などを

九大提案 サイレン山再開発 松末再生の目玉に

1/27の推進協議会で九大三谷教授から乙石川を赤谷川に瀬ノ口で接続し、サイレン山と小学校体育館の後背地を合わせた再開発を行う構想が紹介された。

この提案は1/14の真竹集落会議に参加していた三谷教授が、住民から乙石川をサイレン山を通して赤谷川に繋ぐと良くなるとの意見が出た事を受け、詳細を検討したもので概要は次の通りである。

補捉①小学校横で赤谷川

花崗岩盤があり工費がかさむ可能性がある。②宅地を避けた河道を検討しているが、それでも河道の傍になるお宅が出てしまう。③従来の河道より短くなるために勾配が急になる。

捕捉②勾配が急になることを逆手にとり、小さな滝と水辺を組み合わせ、夏の親水公園として利点に変えることも可能。

と接続すると県道が橋となり、流水対策が困難。②小河内川と乙石川が赤石川(流入する地点に距離が出来、急激な増水で有利となる。③現在の乙石川と赤谷川の合流地点での山腹斜面の補強が容易になる。④新しい河道に避難道路も併設できる。⑤小学校体育館裏側が宅地として利用可能となる。

欠点①サイレン山西側に

サイレン山再開発について説明する三谷九大教授。

三谷教授は「市民アンケートの結果を見ても松末地区だけ今だと感じていたが、サイレン山後の居住地について迷っている人が多い。これは松末の将来像が見えていないことが原因の一つだ。」加えて「今回の集落ごとの復興計画では集団移転用地が松末小学校近傍に集まる結果となっている。このことから小

このことは松末地区は被災が激しく将来の具体像が描けないこと

朝倉市が12月に郵送より実施したアンケート結果が今回示され、松末地区は247戸に郵送され151の返答があり、回収率60% 平均40%と他の地区より住民の関心が高かつた。

また今後の住まいについては「元の場所に住みたい」が他の地区では60%70%になるのに、松末は40%と低く判断できない」が30%と高率である。

■朝倉市アンケート 今後のお住まいについて

元場所に住み続けたい。 44人 41%
現時点で判断できない。 36人 34%
市内の別な地区に転居予定 8人 8%



サイレン山に乙石川を通す事の技術的検討を県で行う。

これが松末の現状です。市民アンケート結果からも、今後の居住に対して未定と回答した住民が松末は他の地区より多く、市には復興計画と平行してより具体的な青写真を提示して頂き、迷っている住民が安心して帰郷を決定できる環境を整えて頂きたい。

伊藤睦人会長より

松末復興かわら版 バックナンバー



松末地区復興計画案(住民案)①

実践・・・各集落案
 破線・・・事務局加筆

朝倉市松末地域コミュニティー協議会